



【IRIS+BV療法について】

(エスワン+イリノテカン+ベバシズマブ)



ID: _____

様

1

コース目



お薬の名前と治療のスケジュール(副作用の状況を考慮して、抗がん薬の影響が強く残っていると考えられる場合は、次の治療開始を延期することがあります。)

薬の名前		作用	めやすの時間	1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	1日目		
アロカリス注 パロノセトロン注 デキサート注	アレルギー予防・ 吐き気止め	30分																																
ペバシズマブ注 (アバستن注)		分子標的薬	初回1時間30分 2回目1時間 3回目以降30分																	この週は お休みです。							この週は お休みです。							
イリノテカン注	抗がん剤	1時間																																
エスワン錠	抗がん剤	朝・夕 内服																																



治療による副作用

注意が必要な時期

		1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	1日目
自覚症状	食欲不振・吐き気																													
		食欲低下や吐き気がすることがあります。食べやすいものを無理なく食べ、水分を摂りましょう。																												
	皮疹																													
		皮膚に痒みや発赤などの症状が出た場合はお知らせ下さい。																												
	下痢																													
		便の回数が多くなったり強い腹痛をとまったり、水の様な便が出るときはお知らせ下さい。																												
	口内炎																													
	口の中が荒れて痛みが出る場合があります。歯磨き、うがいなど丁寧にしっかり行いましょう。																													
色素沈着																														
	肌が黒ずむことがあります。長袖や帽子などを用いて、日光など紫外線には注意してください。																													
脱毛(頭髪・まつ毛・眉毛など)																														
	髪質が少し変わることもあります。治療後半年程度でまた生えてきますので、心配しすぎないでください。																													
検査値	白血球減少																													
		感染しやすくなりますので、手洗いうがいを心がけましょう。必要に応じて白血球数を上げる注射をすることがあります。発熱時はお知らせ下さい。																												
	赤血球減少(貧血)																													
		貧血の症状(動作時の息切れ、動悸)がでたりします。転倒に注意しましょう。																												
血小板減少																														
	出血しやすくなって手足に赤い点やあざがでたり、歯ぐきから血が出たりすることがあります。転倒に注意しましょう。																													
肝機能低下																														
	体がだるい、食欲がでない、皮膚のかゆみ、皮膚や白目が黄色くなる場合があります。																													

以下の副作用は、起こりやすい時期はわかっていますが、早めの対応が必要な副作用です。気づいたことがあればお知らせください。

- 血圧上昇 ●出血(鼻血など) ●タンパク尿 ●胃腸穿孔(下痢や腹痛が続く、激しい腹痛など) ●傷の治りが遅い
- 血栓・塞栓(足が腫れたり痛む、息苦しい、胸痛、片側のまひ、言葉がうまく出ない、気分が悪い、めまいなど)



- * 注射の針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みなどがありましたら、すぐにお知らせください。
- * 上の表は治療のスケジュールや副作用が出やすい時期の目安を示したものです。必ずこの通りになるとは限りません。
- * それぞれの副作用に対して、必要に応じてお薬を使うこともあります。
- * 何か気になる症状が出たり、お聞きになりたいことなどありましたら、気軽に医師・看護師・薬剤師にお尋ねください。



お薬の名前と治療のスケジュール（副作用の状況を考慮して、抗がん薬の影響が強く残っていると考えられる場合は、次回の治療開始を延期することがあります。）

薬の名前		作用	めやすの時間	1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	1日目				
アロカリス注 パロノセトロン注 デキサート注	アレルギー予防・ 吐き気止め	30分																																		
ペバシズマブ注 (アバスチン注)	分子標的薬	初回1時間30分 2回目1時間 3回目以降30分																								この週は お休みです。										
イリノテカン注	抗がん剤	1時間																																		
エスワン錠	抗がん剤	朝・夕 内服																																		



治療による副作用

:注意が必要な時期

		1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	1日目
自覚症状	食欲不振・吐き気																													
		食欲低下や吐き気がすることがあります。食べやすいものを無理なく食べ、水分を摂りましょう。																												
	皮疹																													
		皮膚に痒みや発赤などの症状が出た場合はお知らせ下さい。																												
	下痢																													
		便の回数が多くなったり強い腹痛をとまったり、水の様な便が出るときはお知らせ下さい。																												
	口内炎																													
	口の中が荒れて痛みが出ることがあります。歯磨き、うがいなど丁寧にしっかりと行いましょう。																													
色素沈着																														
	肌が黒ずむことがあります。長袖や帽子などを用いて、日光など紫外線には注意してください。																													
脱毛(頭髪・まつ毛・眉毛など)																														
	髪質が少し変わることもあります。治療後半年程度でまた生えてきますので、心配しすぎないでください。																													
検査値	白血球減少																													
		感染しやすくなりますので、手洗いうがいを心がけましょう。必要に応じて白血球数を上げる注射をすることがあります。発熱時はお知らせ下さい。																												
	赤血球減少(貧血)																													
		貧血の症状(動作時の息切れ、動悸)がでたりします。転倒に注意しましょう。																												
	血小板減少																													
	出血しやすくなって手足に赤い点やあざがでたり、歯ぐきから血が出たりすることがあります。転倒に注意しましょう。																													
肝機能低下																														
	体がだるい、食欲がでない、皮膚のかゆみ、皮膚や白目が黄色くなるがあります。																													

以下の副作用は、起こりやすい時期はわかりませんが、早めの対応が必要な副作用です。気づいたことがあればお知らせください。

- 血圧上昇 ●出血(鼻血など) ●タンパク尿 ●胃腸穿孔(下痢や腹痛が続く、激しい腹痛など) ●傷の治りが遅い
●血栓・塞栓(足が腫れたり痛む、息苦しい、胸痛、片側のまひ、言葉がうまく出ない、気分が悪い、めまいなど)



- * 注射の針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みなどがありましたら、すぐにお知らせください。
- * 上の表は治療のスケジュールや副作用が出やすい時期の目安を示したものです。必ずこの通りになるとは限りません。
- * それぞれの副作用に対して、必要に応じてお薬を使うこともあります。
- * 何か気になる症状が出たり、お聞きになりたいことなどありましたら、気軽に医師・看護師・薬剤師にお尋ねください。